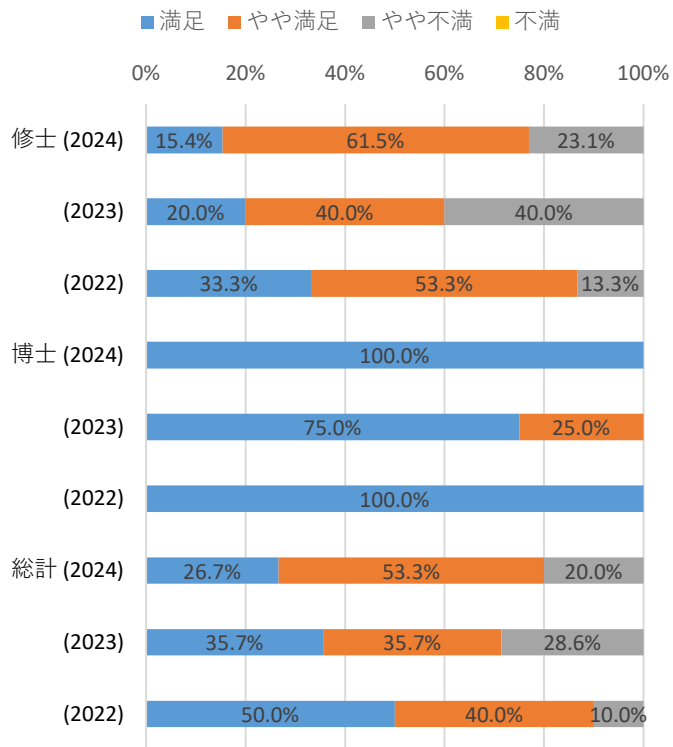
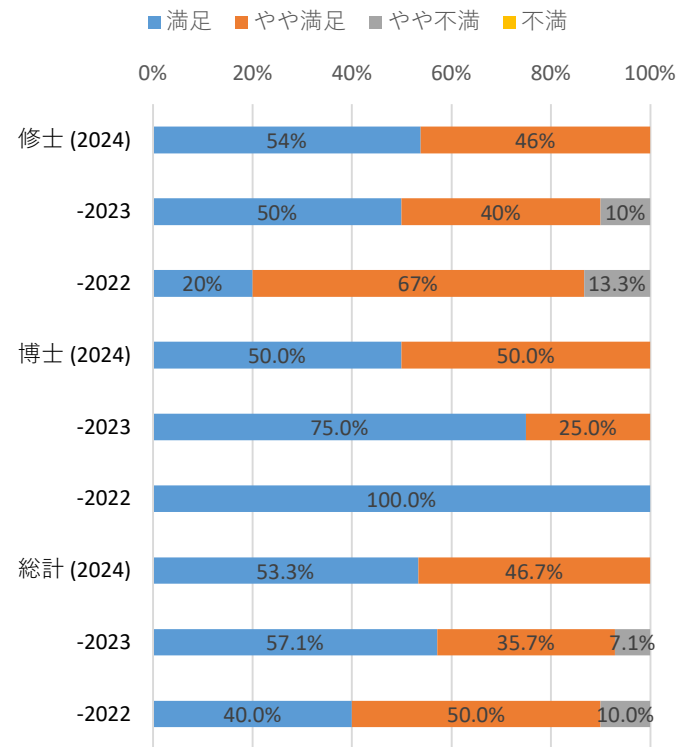




### 3. 専門的な資格取得に向けての指導

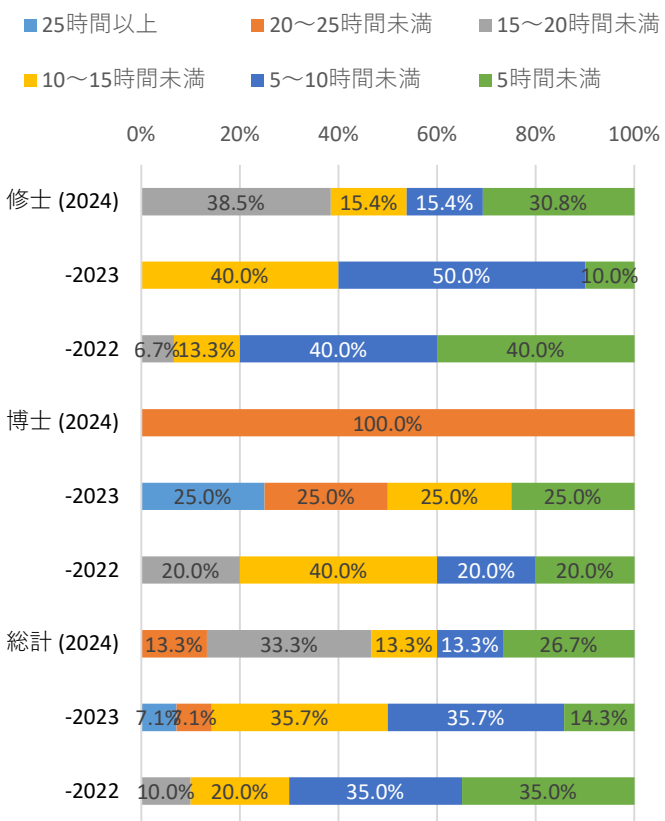


### 4. 成績評価（研究 or 論文評価）

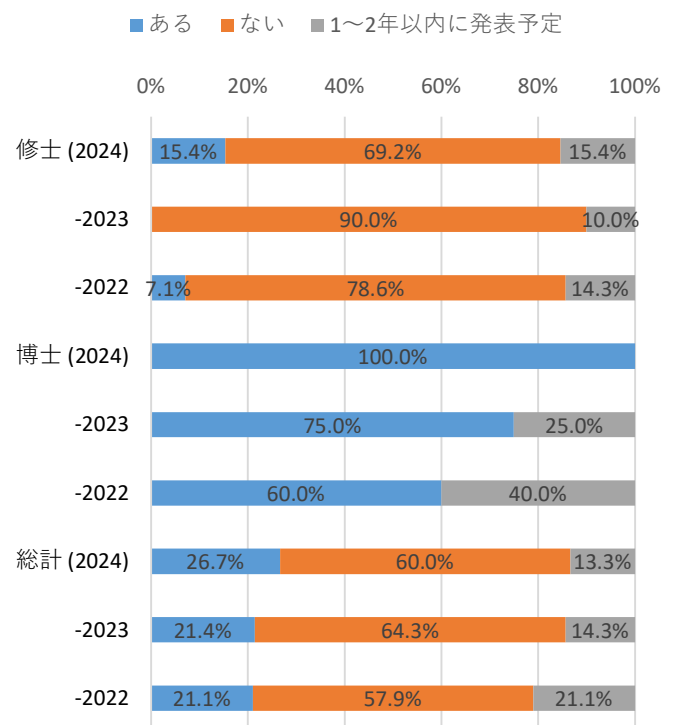


## II. 学修行動について

### 5. 授業やゼミ以外での1週間の研究時間

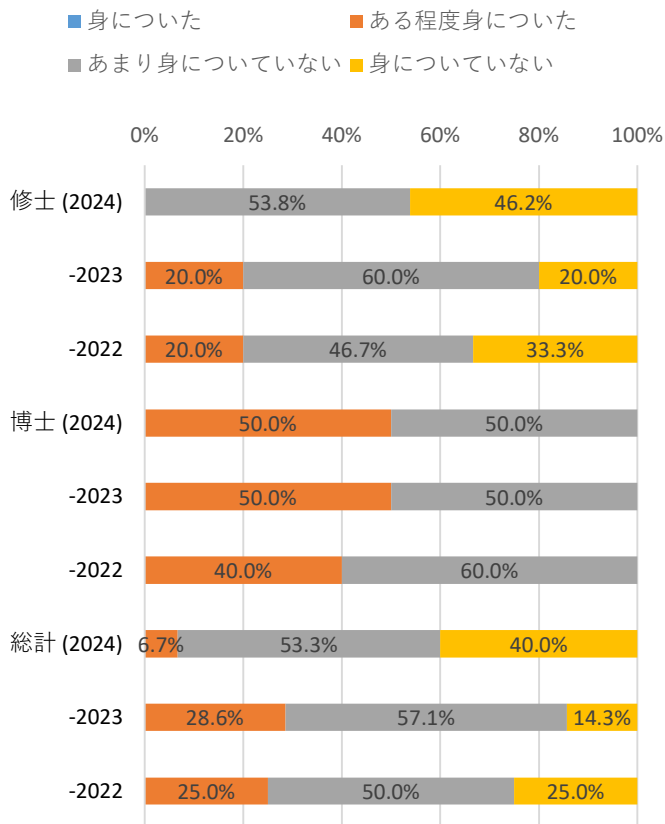


### 6. 研究成果の研究紀要や学会誌、学会などでの発表

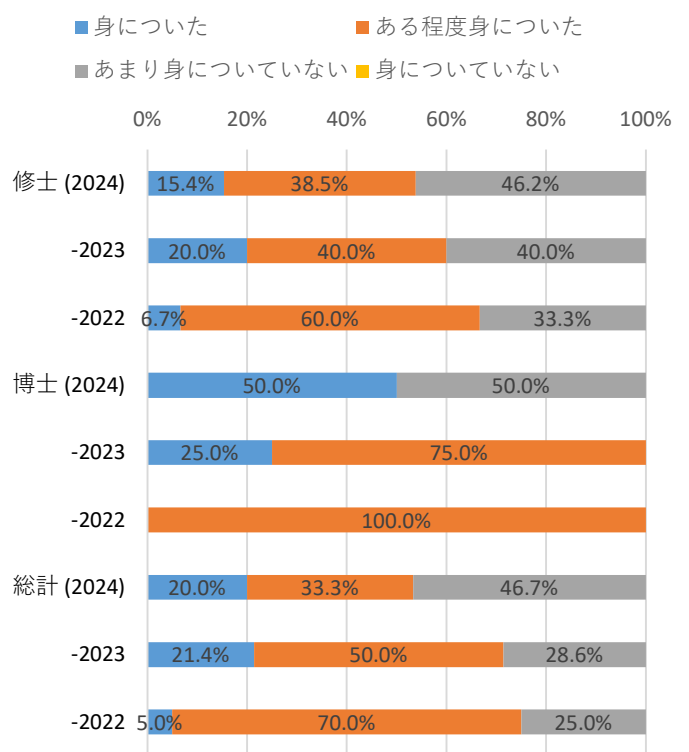


### III. 学修成果について

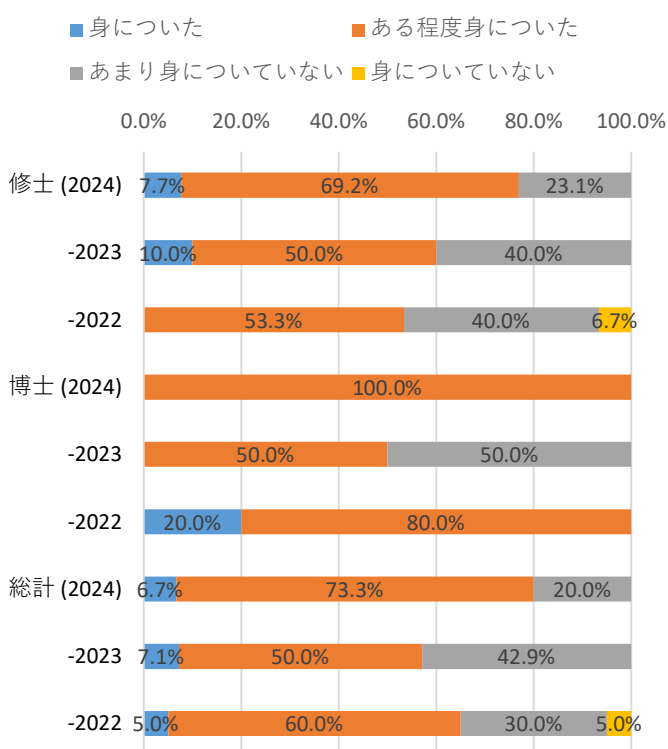
#### 7. 研究を進めていく上で必要な外国語能力



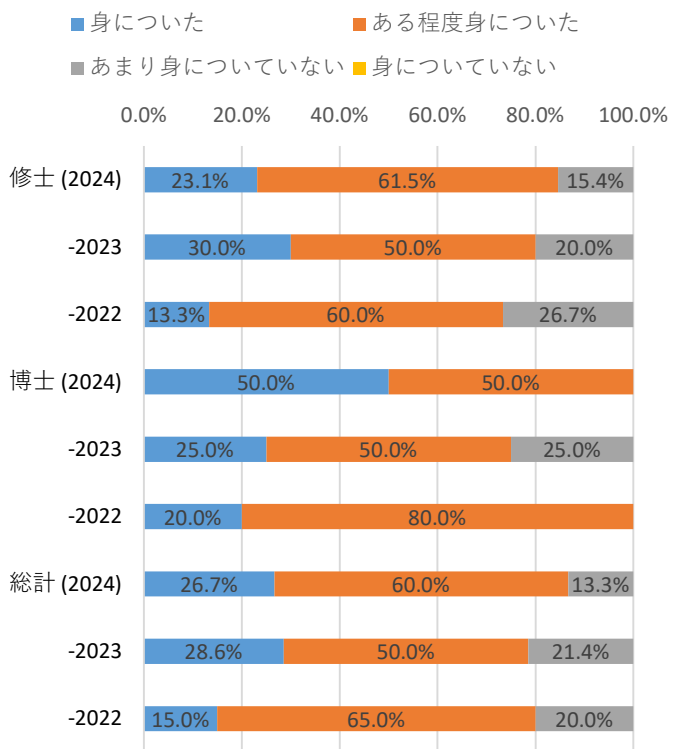
#### 8. 研究を進めていく上で必要なICTリテラシー



#### 9. 研究を進めていく上で必要なプレゼンテーション能力



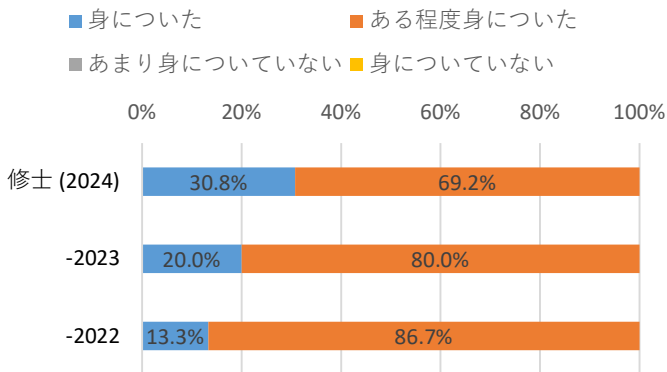
#### 10. 専門分野の資格を取得するために必要な知識と技能



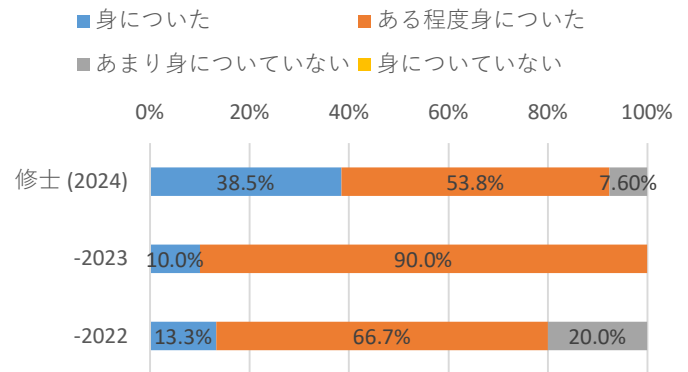
### III. DPの達成度について（学修成果）

#### 【修士課程】

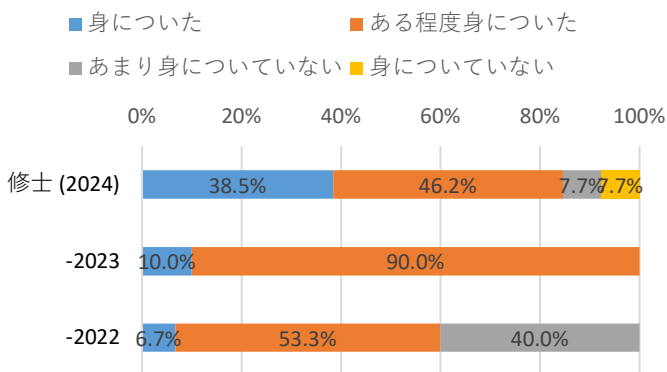
11. 「心理支援の専門家」に求められる社会性と倫理観および法規の知識



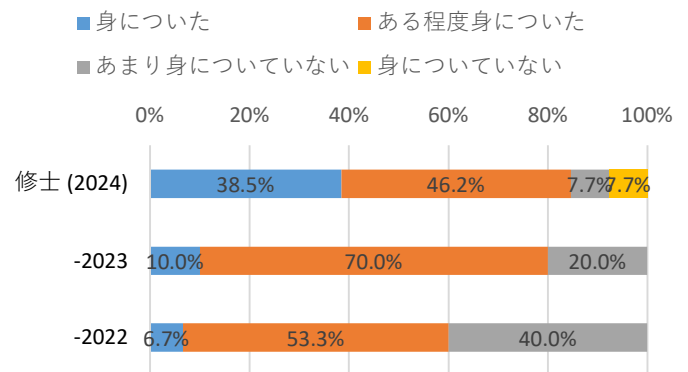
12. 心理に関する支援を要する者の心理状態を観察し、その結果を分析することについての知識と技能



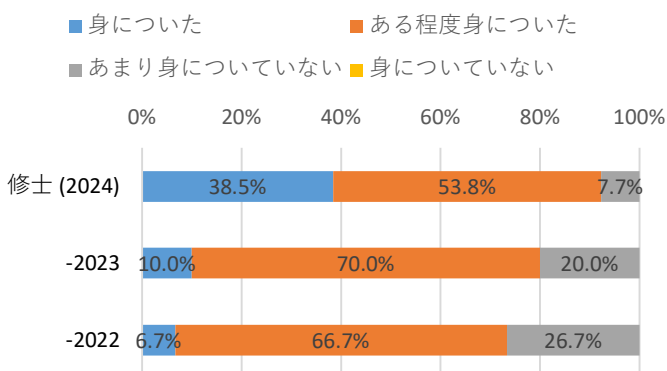
13. 心理に関する支援を要する者に対し、その心理に関する相談に応じ、助言、指導その他の援助を行うことについての知識と技能



14. 心理に関する支援を要する者の関係者に対し、その相談に応じ、助言、指導その他の援助を行うことについての知識と技能

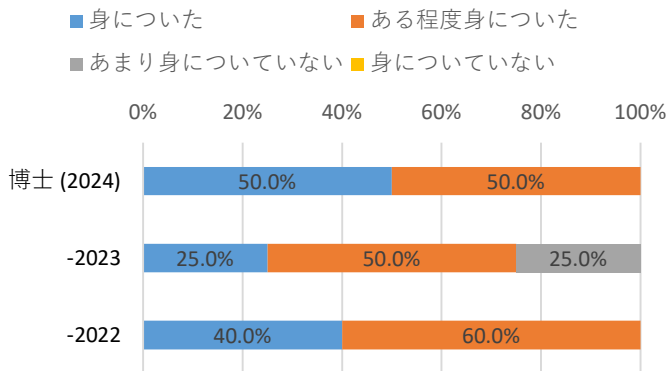


15. 心の健康に関する知識の普及を図るための教育および情報の提供を行うことについての知識と技能

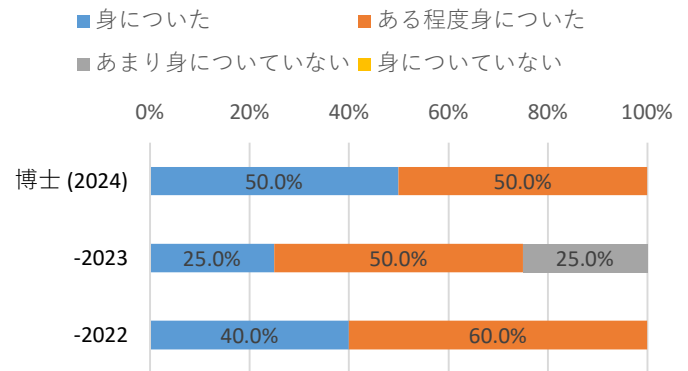


## 【博士後期課程】

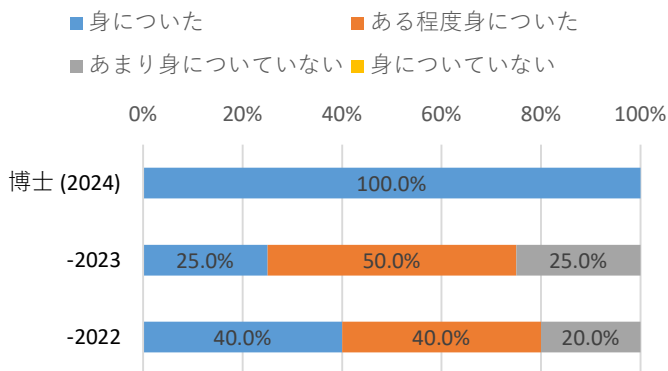
16. 「高度な心理支援の専門家」に求められる深い教養と社会性や倫理観および法規の知識



17. 臨床心理学に関する社会的に意義ある研究を遂行し理論構築を行い公表するための専門性



18. 臨床心理学に関する教育を行うことについての知識と技能



自由記述

「アンケートに答えてみて、自分の学修行動・意識と学修成果について気づいたこと、考えたことを自由に記述してください。」

修士課程

玉石混交の指導者陣がいるこの環境で良くやってると思います。
2年間の限られた中での研究は、時間的に制限があったが、その中でも学会で発表したり、院に入る時からやりたい研究ができたことはとても良かったです。
公認心理師試験に向けた勉強が思うようにできなかった。

博士後期課程

私は心理学外の分野から入学し、挫折しかけました。新たな指導教授から大変手厚くご助言とご指導を受ける中、本日に至っております。入学時のモチベーションを保つことの困難さを経験し、つたなくとも自分らしく考え伝えることの大切さをあらためて考えながら、仕事との両立に苦戦しておりますが、頑張ろうと思えるようになりました。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。
---

## 2024年度東京成徳大学学修調査（大学院）の調査結果の主要 Facts

### 1. 主要 Facts

※回答数が少ないため（修士課程13件、博士課程2件）、以下の考察は「参考情報」とどまる。

#### 【研究指導と研究環境】

修士課程:カリキュラム満足度が2022年度3.2→2023年度3.4→2024年度3.5と上昇し、資格取得指導は2.9と低めながら成績評価(3.1→3.4→3.5)も含め総合的に改善。

博士後期課程:カリキュラム内容が3.6→3.5→4.0と大幅上昇し、研究指導・資格指導ともに4.0と高評価だが、成績評価は4.0→3.8→3.5へ下降傾向。

研究指導と研究環境	修士			博士		
	2024	2023	2022	2024	2023	2022
カリキュラムの内容	3.5	3.4	3.2	4.0	3.5	3.6
研究の進め方や論文作成についての指導	3.4	3.3	3.3	4.0	3.8	4.0
専門的な資格取得に向けての指導	2.9	2.8	3.2	4.0	3.8	4.0
成績評価（研究 or 論文評価）	3.5	3.4	3.1	3.5	3.8	4.0

(参考) 13.3 12.9 12.7 15.5 14.9 15.6

(注)満足=4、ある程度満足=3、やや不満=2、不満=1として計算。

#### 【学修行動について】

修士課程:授業外研究時間が2022年度6.8h→2023年度9.0h→2024年度10.6h/週へ増加する一方、研究成果発表は1.3→1.9→1.5とやや不安定。

博士後期課程:研究時間が10.5→15.6→22.5h/週と大幅増加し、研究成果発表も2.6→2.5→3.0と活発化が見られる。

学修行動	修士			博士		
	2024	2023	2022	2024	2023	2022
授業やゼミ以外での1週間の研究時間	10.6	9.0	6.8	22.5	15.6	10.5
研究成果の研究紀要や学会誌、学会などでの発表	1.5	1.9	1.3	3.0	2.5	2.6

(注)研究時間が 25時間以上=25、20～25時間未満=22.5、15～20時間未満=17.5、10～15

時間未満=12.5、5～10時間未満=7.5、5時間未満=2.5として計算。

(注)発表がある=3、予定=2、なし=1として計算。

【学修成果について】

修士課程:外国語能力が 1.9→2.0→1.5 と落ち込み、ICT リテラシーは 2.7～2.8 水準、資格技能 3.1 へ回復し、プレゼン力は 2.5→2.7→2.8 と上向き。

博士後期課程:外国語能力 2.4→2.5→2.5 で横ばい、ICT リテラシー3.0→3.3→3.0、プレゼン力 3.2→3.5→3.0 など評価にばらつきがあり、資格知識(3.5)は上昇。

学修成果	修士			博士		
	2024	2023	2022	2024	2023	2022
研究を進めていく上で必要な外国語能力	1.5	2.0	1.9	2.5	2.5	2.4
研究を進めていく上で必要な ICT リテラシー	2.7	2.8	2.7	3.0	3.3	3.0
研究を進めていく上で必要なプレゼンテーション能力	2.8	2.7	2.5	3.0	3.5	3.2
専門分野の資格を取得するために必要な知識と技能	3.1	3.1	2.9	3.5	3.0	3.2

(参考) 10.1 10.6 9.9 12.0 12.3 11.8

(注)身についた=4、ある程度身についた=3、あまり身につかなかった=2、身につかなかった=1 として計算。

【DPの達成度について (学修成果)】

修士課程:倫理観・法規や観察・分析力など①～⑤が 2.7 台→3.1～3.3 へ向上し、合計 14.2→15.2→16.2 で全体的に大きく伸びた。

修士課程 DP	2024	2023	2022
①「心理支援の専門家」に求められる社会性と倫理観および法規の知識	3.3	3.2	3.1
②心理に関する支援を要する者の心理状態を観察し、その結果を分析することについての知識と技能	3.3	3.1	2.9
③心理に関する支援を要する者に対し、その心理に関する相談に応じ、助言、指導その他の援助を行うことについての知識と技能	3.2	3.1	2.7
④心理に関する支援を要する者の関係者に対し、その相談に応じ、助言、指導その他の援助を行うことについての知識と技能	3.2	2.9	2.7
⑤心の健康に関する知識の普及を図るための教育および情報の提供を行うことについての知識と技能	3.3	2.9	2.8

16.2 15.2 14.2

博士後期課程:深い教養や研究遂行能力(①②)が 3.4→3.0→3.5)は再上昇し、教育実践力(③)は 3.0 前後で横ばいだが、合計が 9→10 へ回復。

博士後期課程 DP	2024	2023	2022
①「高度な心理支援の専門家」に求められる深い教養と社会性や倫理観および法規の知識	3.5	3.0	3.4
② 臨床心理学に関する社会的に意義ある研究を遂行し理論構築を行い公表するための専門性	3.5	3.0	3.4
③ 臨床心理学に関する教育を行うことについての知識と技能	3.0	3.0	3.2

10.0 9.0 10.0

(注)身についた=4、ある程度身についた=3、あまり身につかなかった=2、身につかなかった=1 として計算。